

消防団PR団員と学生による 消防団活動のあり方検討会

報告書

2013年2月15日

消防団PR団員 柴田賢治・廣田健一・玉置亜弥

開催趣旨

近年、消防団は団員数の減少及び平均年齢の上昇が進んでおり、大学生や専門学生などの若い団員や女性団員の確保が大きな課題となっています

そこで愛知県では、消防団に対する理解の促進と団員の増加を図る「消防団発信事業」を実施しています。県内の6つの消防団に3人の消防団PR団員を派遣し、消防団活動の体験をブログなどで発信することにより、消防団の魅力や重要性などをアピールしようというものです。

事業の一環として、消防団PR団員とみよし消防団東海学園大学分団団員との意見交換の場を設けることとしました。名称は「消防団PR団員と学生による消防団活動のあり方検討会」。

日頃から消防団活動に携わっている若者たちに、若い世代の団員を確保するという課題を解決するためにどのような対策を講じればよいのか、既成概念を取り払い、若者ならではの枠にとらわれない自由な発想で、消防団の魅力や団員確保策について討論してもらいました。

会議概要

【第1回会議】

日 時:平成24年11月28日(水) 13:00~14:30

場 所:東海学園大学三好キャンパス(みよし市福谷町西ノ洞21-233)

参加者:消防団PR団員3名

みよし市消防団東海学園大学分団団員19名

加藤實・東海学園大学経営学部教授(オブザーバー)

議 題:若者に魅力ある消防団について

【第2回会議】

日 時:平成25年1月30日(水) 10:00~

場 所:東海学園大学三好キャンパス(みよし市福谷町西ノ洞21-233)

参加者:消防団PR団員3名

みよし市消防団東海学園大学分団団員17名

加藤實・東海学園大学経営学部教授(オブザーバー)

議 題:意見書内容取りまとめ

若者たちからの提案

① 学生消防団ネットワークの構築

県内の各大学に東海学園大学と同様の学生消防団の設置を働きかけ、学生消防団のネットワークをつくることができれば、若い世代の確保につながると考えます。

⇒ みよし市消防団東海学園大学分団では、学生消防団の活動を広く知ってもらうため、ホームページ開設などの広報に力を入れ、各大学の仲間に参加を呼び掛けていきます。

② イベントの開催

消防団への加入を促すためには、消防団がどんな活動をしているのかを理解してもらう必要があります。実際の消火活動を間近に見ることができるアトラクションや各大学のボランティアサークルなどが集まって消防・防災について意見交換するフォーラムといったイベントを通じて、消防団の真の姿を知っていただくことが必要だと考えます。

③ 消防団員限定のグッズ開発

消防団のステイタスシンボルとなるようなカッコいいデザインのスマートフォンケースなど、消防団に加入にしなければ手に入れることのできないグッズを開発してはいかがでしょうか。消防団員以外の人に消防団への憧れを抱いてもらうきっかけにもなりますし、団員同士の連帯感も強まるという効果も期待できます。

参考① 若者が消防団に対して抱いていたイメージ

- ・「消防団」＝「消防署」だと思っていた
- ・男の人ばかりというイメージ
- ・どうやったら入ることができるのかが分からない
- ・「消防団」という名前しか聞いたことがなかった
- ・「キツイ」「危険」というイメージがある
- ・何をしているか、よく分からない
- ・30代以上の大人がやるものだと思っていた etc



【まとめ】

消防士と混同している人が多く、名前は耳にするものの実態はよく分からない存在であるということが浮き彫りになりました。

参考② 若者が消防団活動を行って感じたこと

- ・応急手当普及員などの資格がとれる
- ・人のために頑張っているというやりがいを感じる
- ・活動時間が朝早いので、人目につきにくい
- ・地域の人と触れ合うことができて楽しい
- ・やる気さえあれば一般の人でも十分にできることだと知った
- ・地域になくてはならない存在だと知った
- ・めったにできないいい経験をさせてもらっている etc



【まとめ】

地域になくてはならない存在であるという認識を抱く人が多く、入団前の悪いイメージが良いイメージに変わる傾向にあることが分かりました。